

## 2 肉牛

東京の肉牛は役用(農耕用・運搬用)として飼養されてきましたが、明治後期から大正にかけては、区部を中心に肉用としての飼養も加わったことで、頭数は急速に増加しました。

しかし、昭和元年(1926)の12,000頭をピークに、その後は徐々に減少し昭和40年(1965)には飼養頭数が1,100頭にまで落ち込みました。これは、戦前戦後、褐毛和種を中心に役肉牛として飼養されていたものが、昭和20年代末期からの耕運機の普及により、急激に減少したものと考えられています。

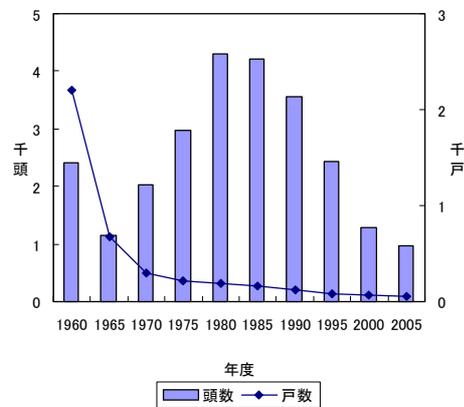
その後は牛肉需要と相まって、飼養頭数は昭和50年代には4,000頭台まで回復しました。現在では、黒毛和種を中心に島しょや多摩地区で、1,000頭が飼養されています。

### ○これまでの取組と生産の特徴

肉牛の生産は、子牛を生産する繁殖農家と子牛を肥育する肥育農家に分かれています。温暖で雨量の多い気候のもと粗飼料になる草が豊富な八丈島、青ヶ島、小笠原では、黒毛和種の繁殖経営が行われています。一方、都内の肥育農家は、和牛産地から肥育素牛<sup>※71</sup>を導入して肥育するほかに、島しょで生産された子牛の肥育も行っています。

また、東京都は、受精卵移植技術の開発と普及に取り組んできました。これにより、酪農家が受精卵移植による和牛生産を行ったり、肉牛繁殖経営等への転換に取り組んでいます。

【肉用牛飼育頭数と農家戸数の推移】



【黒毛和種の子牛】



## ○課題

- ・ 島しょの和牛の繁殖農家と都内の肥育農家との連携を進め、新たな和牛ブランドの確立が求められています。
- ・ 酪農家等の肉牛経営への転向などを進め、ブランド和牛の生産拡大が求められています。

## ○取り組むべき具体的内容

- ・ 島しょ農家に飼養技術指導を行うとともに、都内肥育農家との定期的な協議の場をつくる等、両者の連携を支援し、和牛ブランド確立のための技術指導を行います
- ・ 島しょにおいて、乳用牛への和牛受精卵移植による和牛生産を促進します
- ・ 公共牧場などの草地を活用して、良質な子牛生産を支援します
- ・ 都内肉牛肥育農家を新規に育成するために、既存の酪農家の牛舎を活用した肉牛経営や林間放牧支援をします

## ○今後の計画

- ◇ 島しょでの黒毛和種生産 ... 島しょの草資源と牧場の利用促進
- ◇ 肉牛の農家育成 ... 受精卵移植和牛生産促進
- ◇ 肉牛流通対策 ... 和牛ブランド化促進